

大学院特別講義

第 8 回口腔保健工学セミナー共催

(医歯学先端研究特論)

(生命理工医療科学先端研究特論)(医歯理工学先端研究特論)

ハイブリッド型講義

聴講希望者は直接ご来場いただくか、Zoom 参加の場合は QR コードまたは URL よりご登録の上、ご参加ください。



https://zoom.us/meeting/register/tJApf-ytrj4qH9OYu_XoUmuSrZ6g_T0GOz9M

記

演題：X線被ばくのない腰椎・大腿骨骨密度測定法
- DXA から REMS 法（超音波多重分光法）へ -

講師：東洋メディック株式会社 野中 希一 先生

日時：2024 年 7 月 18 日（木）17：30～19：30

場所：M&D タワー13 階大学院講義室 2 及び ZOOM オンライン講義
要旨：

骨粗鬆症診療ガイドラインは、DXA による腰椎および大腿骨の骨密度測定を推奨している。しかし、X線被ばくのリスク、設置スペース、専用設備などの課題があり導入の妨げになっている。一方、QUS は、X線被ばくがなく、専用の設備を必要としないが、測定部位が踵骨でありスクリーニング機器である。

近年開発された REMS 法（Radiofrequency Echographic Multi-Spectrometry：超音波多重分光法）は、超音波を用いてガイドラインが推奨する腰椎および大腿骨を測定する。REMS はX線被ばくがなく、アクセシビリティが高く、省スペース型であり、ベッドサイドや訪問診療などこれまでと異なる骨密度検査の場面が容易に想像できる。既存の骨密度測定法を概観し、REMS がどのようなアンメットニーズに応えることができるのか、原理と臨床成績を紹介する。

連絡先：青木和広（口腔基礎工学分野 内線 4641）
e-mail: kazuhiro_aoki.bhoe@tmd.ac.jp